

ふじみ野

No.42

H28.8.1 発行

埼玉県ふじみ野市議会

市議会だより

CONTENTS

交通事故ゼロのまちを目指して 2p

政務活動費を公開 5p

地域探訪 うつりかわる町並み 5p

～ 編集委員が訪ねました ～

市政を問う！ 一般質問 18人が政策論議 6p



働く人シリーズ②1 印鑑作成工房

コツコツコツ 想いを込めて一彫り一彫り丁寧に彫る作業。機械化の進む中、魂のこもった一彫りが室内に響きわたります。一生に1本の大事な品物、今の時代だからこそ職人の手仕事に光ります。

関連記事：12ページ

平成28年第2回定例会が開催され、一般会計補正予算、自転車などの安全な利用の促進に関する条例などの議案が提出されました。

校舎大規模改修工事請負契約の追加議案を含め、市長提出議案17件すべて、議員提出議案のうち1件が可決されました。請願1件は不採択となりました。

交通事故ゼロのまちを目指して

自転車の安全利用促進条例

市は、自転車の安全な利用の促進を図ることを目的とする。

市は、自転車の安全な利用の促進を図ることを目的とする。

市は、自転車の安全な利用の促進を図ることを目的とする。

市は、自転車の安全な利用の促進を図ることを目的とする。

市は、自転車の安全な利用の促進を図ることを目的とする。

市は、自転車の安全な利用の促進を図ることを目的とする。

市は、自転車の安全な利用の促進を図ることを目的とする。

市は、自転車の安全な利用の促進を図ることを目的とする。



スタントマンによる実際の事故を再現するスクエアードストレイト教育の様子

提出議案と審議結果

●全会賛成 ○賛成多数 ●否決

●専決処分承認

●平成27年度一般会計補正予算(第6号)

●市税条例等の一部改正

●都市計画税条例の一部改正

●国民健康保険税条例の一部改正

●固定資産評価員の選任

●市立子育てふれあい広場の指定管理者の指定

●平成28年度補正予算

●一般会計(第2号)

●条例の制定

●自転車の安全な利用の促進に関する条例

●条例の一部改正

●市税条例等の一部改正

●印鑑条例の一部改正

●指定地域密着型サービス及び指定地域密着型介護予防サービスの事業に関する基準等を定める条例の一部改正

●市税条例等の一部改正

●都市計画税条例の一部改正

●国民健康保険税条例の一部改正

●固定資産評価員の選任

●市立子育てふれあい広場の指定管理者の指定

●平成28年度補正予算

●一般会計(第2号)

●条例の制定

●自転車の安全な利用の促進に関する条例

●その他

●道路線の認定(2件)

●請願

●意見書

●不採択

●可決

●可決

●可決

●可決

●可決

●可決

●可決

●可決

●可決

●可決

●可決

●可決

●可決

●可決

●可決

●可決

●可決

議会新人事



議長
小高 時男



副議長
山田 敏夫

6月定例会初日に副議長選挙が行われ、山田敏夫議員が副議長に就任しました。また、各常任委員会及び議会運営委員会の委員の改選が行われました。

正副議長より

市民の皆様には、平素より市議会に對しまして、格別のご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

私たち市議会は、これまでの慣例にとられることなく、より一層の創意工夫と努力を積み重ねるとともに、市民の皆様様の安心・安全を守るため、執行機関との真摯な議論により有効な政策を推進し、諸課題の解決に全力を尽くしてまいります。

○委員長 ○副委員長

総務常任委員会			
○有山 茂	○川畑 京子		
加藤 恵一	渡辺 大		
伊藤美枝子	西 和彦		
塚越 洋一			

市民・都市常任委員会			
○小林 憲人	○谷 新一		
堀口 修一	民部 佳代		
小高 時男	足立志津子		
床井 紀範			

福祉・教育常任委員会			
○島田 典朗	○鈴木啓太郎		
島田 和泉	新井 光男		
伊藤 初美	山田 敏夫		
大築 守			

議会運営委員会			
○大築 守	○島田 和泉		
堀口 修一	伊藤 初美		
西 和彦	有山 茂		
塚越 洋一			

※議会広報常任委員会は裏表紙をご覧ください。

総括質疑

本会議での質疑をまとめています。

システム構築に関わる担当課も多く、総合的なスケジュール管理が重要となる。限られた時間の中で、確実に遅延なく進めるために、専門知識を有するコンサルタントへの協力も仰ぐ。

10月からの予算編成システムの運用を経て、年度末までには、財務会計システムを構成する全てのシステムと固定資産システムの構築を完了し、平成29年度からの本格稼働を予定している。

県内初となる、日々仕訳方式を導入するメリ

ットは。

これまでの期末一括仕訳方式では、決算時期以外での財務状況の把握ができない。日々仕訳方式では、固定資産台帳を日々の業務で登録し、財務会計システムと突き合わせをすることで、見えにくいコストやストックを確認・活用し、予算編成や財政運営に活かすことができる。

広域ごみ処理施設等建設事業

工期延長に伴う建設費用の増加理由は。

敷地内の産業廃棄物処理工事や調整池土壌改善・鋼矢板止水対策工事など、予期できない工事の影響で本体工事が7カ月の延長となった。それに伴い仮設事務所などのリース代や現場で使用する大型重機の組み立て運搬、人件費などが増額となる。

議案に対する総括質疑

青藍会 谷 新一 議員

日本共産党 塚越 洋一 議員

公明党 島田 和泉 議員

政務活動費を公開しています

議員の調査研究等に資するために必要な経費の一部として、議員1人当たり月額1万円を限度に政務活動費が支給されています。政務活動費の使途は条例により厳格に定められており、また、収支については、領収書を添え、報告することが義務付けられています。

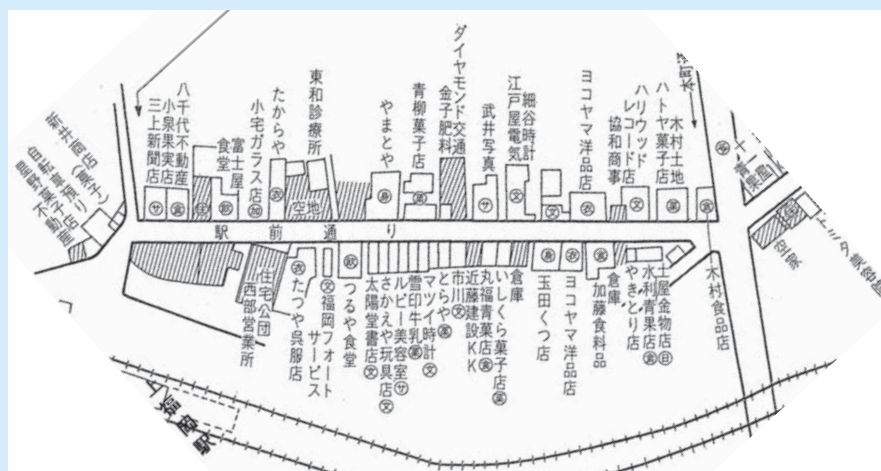
平成27年度政務活動費支出状況 (単位＝円)

会派名	人数	交付金額	支出金額	差引金額	返還額
青 藍 会	9	990,000	1,010,925	△20,925	0
日本共産党	5	550,000	554,494	△4,494	0
公 明 党	4	440,000	340,761	99,239	99,239
無 所 属	1	110,000	7,000	103,000	103,000
	1	110,000	880,000	△770,000	0
	1	110,000	88,707	21,293	21,293
合 計	21	2,310,000	—	—	223,532

※△は会派各自が負担しています。

※平成27年度は改選期のため、政務活動費の支出は議員1人あたり110,000円（平成27年5月から平成28年3月まで月額10,000円）となっています。

平成27年度の各会派の主な使途は、他自治体への行政視察に関する旅費や研修への参加費、広報に要する費用、資料購入費等となっています。政務活動費に不足が生じた場合は、各会派所属議員において負担し、年度末に残余が生じた場合は、市へ返還することとなっています。これら収支報告は公開されており、市ホームページにも掲載しています。



昭和41年頃の地図（上福岡歴史民俗資料館所蔵）

地域探訪

駅前名店街の夕日

うつりかわる町並み

編集委員が訪ねました

Q 当時の商店街の成り立ちは？
A 戦後（昭和24年頃）商店街組織が形成され、霞ヶ丘・上野台団地の開発とともに最盛期を迎えました。



昭和45年頃の様子（現在の上福岡駅前名店街）

Q 当時と今を比べるとどのように変わりましたか？
A 鉄道・団地の開発とともに人の流入が増え、商店街が華やかに賑わいました。当時は、お子様連れで買い物に來られる方が多く、商店街に子どもの声が響き渡り活気がありました。今は、そういう光景が減ってきたと思います。

Q

未来に向けて理想の商店街は？

A 商店同士が協力し合い地域を盛り上げて、昔のような子ども連れのお客様が多く來られる賑わいのある商店街になっていければと感じます。

取材先…駅前名店街の細合健一さん

平成28年度補正予算 ピックアップ事業



地域の方による読み聞かせ

コミュニティ・スクールは、保護者や地域住民などから構成される学校運営協議会が設けられ、学校運営の基本方針を承認したり、教育活動などについて意見を述べるといった、地域とともに学校づくりを進める取り組みです。

教育

地域とともに学校をつくる

コミュニティ・スクール推進事業 19万6千円

問 この事業に取り組む意味は。
答 学校と地域が協働する仕組みを作り、学校を新たな学びの公共空間とすることで地域コミュニティを推進したいと考えている。
問 5回の講習会が計画されているが。

答 すでに同事業を推進している横浜市のコミュニティハウス前館長 および学識経験者を講師にお招きして、全国の事例を参考に研究していく。
問 年次計画は。
答 今年度は検討委員会を立ち上げ、来年度モデル校を2校選定し、順次増やしていく計画となっている。

問 学校運営協議会のメンバーはどのような構成になるのか。
答 これから選定を行っていくところであるが、当然学校からの意見も反映させていかなければならないと考えている。

今まで学校を支えてきていただいたPTA、学校評議員、学校応援団といった方々に、引き続きご協力をお願いすることもあると考えている。

農政

市内農産物 独自ブランド化へ

農政振興事業 102万6千円

国道254号バイパス沿いの水田地域に産業系企業の誘致を図るため、県との協議を進めています。ただし、当該地域が農業振興地域であるため、生産量の減少分を補う農業振興策が必要となります。そこで、市全体の新たな農業振興策について活発な議論が交わされました。

問 産業用地に転換される農地に特化した作物の振興策なのか、もしくは市全体の農業振興策なのか。
答 産業用地に転換される農地だけではなく、市全体としての農業振興策になる。

問 どのような振興策が考えられるか。
答 市内では、ほうれん草等かなり優れた農産物が生産されている。そういった農産物をブランド化し、販売促進及び生産量の拡大に結び付けたい。

問 「ふじみ野市産」というPRをし、独自の販路をつくっていくのか。
答 販路については、JA等と調整し検討したい。

問 農家の後継者不足解消を含めた検討を。
答 農家の後継者不足解消を含めた検討を。



市内で生産されているブランドほうれん草「菜色美人」

一般質問とは、議員が市政全般にわたり、市の考えを問うものです。今回の議会では、18人の議員が一般質問を行いました。掲載した内容は各議員本人が要約したものです。なお、全ての質問と回答は市議会ホームページの会議録で閲覧できます。

青色パトカーの活動拡大のために

島田典朗 議員

問 各種イベントへの参加により、活動の認知度向上を。

答 隊員の増強は必要であり検討していく。

市所蔵の絵画等芸術作品を身近に

問 市民からの寄贈作品など、市所蔵の芸術作品にふれる機会を。

答 一部の作品については、市ホームページで紹介しているが、市報での



作品紹介や庁舎内ギャラリーでの展示についても検討していく。

活用は。

答 地域住民が芸術作品に触れる機会は大変良いことであり、趣旨を踏まえて、効果的な活用を検討していきたい。

より安全な歩道整備を

問 ヤマハ埼玉工場跡地には、大型電器量販店や専用住宅の開発の予定があるが、周辺道路の整備計画は。

答 開発事業者に対し歩道用地の協力を要請し、敷地西側に2メートル幅での歩道が整備されることとなった。

問 まちづくりへの協力依頼は。

答 防災・防犯や環境市内雇用、市内商店との連携等を依頼していく。

朝食抜きの児童・生徒への対応を

谷 新一 議員

問 朝食抜きの児童・生徒の実態把握をしているか。

答 学力・学習状況調査や学校アンケート調査等によれば、市内小学6年生の3.7%、中学3年生の5.6%と把握している。

問 朝食抜きの児童・生徒への対応は。

選挙年齢引き下げへの対応を

西 和彦 議員

問 18歳以上を対象とした法改正を受け、投票率向上に向けて啓発活動等の取り組みは十分か。

答 高校での模擬選挙授業の実施、対象の有権者約2300人に啓発冊子や投票記念カードの交付を予定している。今後も

より使いやすい地域公共交通を目指して

問 お出かけサポータタクシーの利用者からは、医療機関の乗降場を増やしてほしいとの声があるが。

答 7月から市内全医療機関等を共通乗降場に追加する方向で準備を進めている。

問 実証運行期間中、循環ワゴンの運行形態等について調整は可能か。



市内循環ワゴン

の法律が施行されたが、自治体の役割は。

答 仕事と家庭の両立を目指した推進計画の策定や相談及び助言等を支援する。

また、その取り組みが効率的かつ円滑に実施されるよう協議会の組織化をすすめていく。

障害者差別解消法による施策への取り組みは

問 障がいのある人もな

小中一貫教育

渡辺 大 議員

問 子どもたちの「生きる力」を付けるためには、「豊かな心」「健やかな体」

「確かな学力」の3つをバランスよく育てることが重要だが、「確かな学力」においては、学力の定着が目標とされている。

学力の定着に効果的である小中一貫教育、習熟度別授業の導入を提案する。市の考えは。

答 本市では、9年間の学びと育ちの連続性を重視した教育を推進し、一歩踏み込んだ小中連携を展開している。少人数指導やチーム・ティーチングとともに習熟度別学習にも取り組んでいる。

学校選択制

問 小中学校の学校選択制は、生徒・保護者の選択の幅を拡げ、学校間の競争により教育環境の改善が進み、特色ある学校・

自殺のないふじみ野に

伊藤美枝子 議員

問 悩みを抱えている子どもたちの把握と取り組みは。

答 子どもたちとの対話やアンケート調査を活用し、小さなサインを見逃さないよう努める。また、兆候が表れた子どもの保護者と情報共有を図り専門機関と連携し組織で対応する。日頃から相談しやすい人間関係づくりに

励み、道徳の授業では、自己肯定感を高め、自他の命を大切にする教育に努める。

問 改正自殺対策基本法では、新たに市が自殺対策計画を策定すると定められた。今後の取り組みは。

答 国・県のアドバイスを受けながら策定していきたい。

家族で楽しめる公園の再整備を

問 市民プール跡地や福岡高校跡地などを利用して、スポーツや家族で思いっきり遊べる環境の整備を。

答 プール解体後は、多目的広場を整備し、テニスコートはオムニコート設け6面とする。福岡高校跡地の整備を踏まえ総合的に進める。

芸術性の高い音楽ホールの建設を

問 音響効果が良く、ピアノも他にないものを置



再整備が待たれる運動公園

くなど、利用率を高める中規模なホールの建設を。

答 音楽的なホールであれば中小規模でも良いと思う。必要性も認める。公共施設適正配置計画の見直しの中で検討する。

問 街中には管理の行き届かない集合住宅がカラスの餌場になる事例がある。ごみの減量を市民事業者、市の3者協働で進めたように、効果的な対策を研究する。

カラスの被害からまちを守る

問 ごみ減量の成功を踏

知っておこう！福祉避難所

鈴木啓太郎 議員

問 熊本地震では福祉避難所が計画通り開設できず、広報が不十分と指摘されたが。

答 災害時に要介護高齢者、障がい者、妊産婦など避難所では生活が困難な方に、必要な支援を提供する施設が福祉避難所

となる。防災訓練時に福祉避難所の開設訓練を行い、その機能と場所を周知する。

障がい者世帯の貧困救済を

問 障がい者の生活調査で、貧困の実情が報告されているが、どのような

熊本地震での教訓を活かした市の防災計画を

新井光男 議員

問 高齢者や障がい者など社会的な弱者への支援強化、女性の視点での計画の見直しをすべきでは。

答 名簿に登録された8258人の避難行動要支援者は、地域包括

支援センター等に情報提供されており、迅速に避難できる体制づくりに取り組んでいる。今後も女性の視点を取り入れた防災計画の見直しを進める。

小・中学校教職員の多忙解消

問 長時間過密労働の実態、部活動のあり方の改善を。

答 中学校教員は、月約60時間の時間外勤務をしている。部活動に外部指導者の積極的活用、顧問を2人体制にして休養の確保に努めるなど教職員の負担軽減を各校に指導する。

手話条例の制定を

問 対象者や団体との協議、社会的環境の整備を。

答 条例制定に向け昨年より当事者団体との協議を進めている。地域自立支援協議会からも意見を伺っている。手話を使う市民が安心して日常生活を送ることができる環境を整えていく。

災害に備えて

加藤恵一 議員

問 自主防災組織におけるスタンドパイプ式初期消火器具の導入状況は。

答 現在9つの自主防災組織に導入済み。また、自主防災組織への補助制度もあるため積極的な導入を推進していく。

答 これまでも懸垂幕、横断幕、のぼり旗等の啓発物資に「ふじみん」を取り入れたデザインを使用してきた。より効果的な啓発活動ができるように、街頭啓発活動の際に「ふじみん」にも参加を依頼する予定である。

企業誘致に伴い減少していく農地への対応は

有山 茂 議員

問 企業誘致により市街化調整区域内の農地が減少する中で、今後

の農業への対応は。
答 開発行為により調整区域内の農地が減少するため、対策を講じる必要がある。営農意欲が高い地域は、各種補助金を活用し、引き続き農業経営の支援をしていきたい。

下水道事業の経営内容は

問 下水道事業の経営

状況は。
答 損益計算上では、今年度約6900万円の利益が発生し、経営は概ね良好である。
問 今後の事業展開は。
答 施設更新のため事業費用が増加する。市民に欠かせないインフラであるため、長期的な計画を策定し事業を実施する。

三芳スマートICフル化の安全対策

問 県、関係市町との安全対策等に関するこれまでの検討状況は。

答 昨年12月と、今年3月に会議を実施し、対策の必要な箇所を抽出し事故発生要因を分析・協議調整している。
問 交通量の変化が予想されるが、市の調査・検討状況は。
答 交通動向の変化などを分析し、道路整備や安全対策の方向性を検討している。
問 大井中学校前の市道の安全対策は。
答 開通後の交通状況を踏まえ整備を検討する。

問 空き家情報の自治組織や民間団体との共有体制は。
答 自治組織との協働は重要であり、情報提供など協力して行っている。今後は、宅建業者などと連携して空き家バンク創設に向けて検討をすすめていく。

18歳選挙権更なる投票率向上に向け

問 ふじみ野市PR大使を活用した投票周知PRを。



スタンドパイプ式初期消火器具

身近な場所に親子の居場所を

民部佳代 議員

問 放課後児童クラブで午前中に行う乳幼児向けの子育てサロン。さぎの森小学校での実施は。

答 ニーズを把握し研究する。

問 東台小学校の子育てサロンは地理的に利用しづらい人もいる。東原小学校でできないか。

答 来年度実施に向け検討する。



問 ふるさと納税で市を応援地域猫サポーター

や新春ロードレース大会など、応援したいという思いを尊重して寄付を集めるべき。市民から寄付を募ってもいい。財政への影響は。
答 例えば夫の年収が500万円、専業主婦と子ども1人の場合、市外に3万円寄付をすれば、市は4千円の歳入減。一方、市に寄付してもらえば返礼品の金額を考慮すると約1万4千円の歳入増となる。
問 寄付は安定財源ではない。有効に活用するには、基金の創設が

必要では。
答 将来的に検討していく。

子どもの貧困を生むDVへの対応

問 DVは子どもの貧困の原因の一つ。避難で別居すれば、ひとり親支援の対象になるか。

答 裁判所の保護命令を受けるなど、要件を満たせば対象となる。

問 被害者は相談自体、勇気が必要なこと。職員の対応は。
答 全庁的に研修などを実施していく。

さらなる循環型社会の推進を

堀口修一 議員

問 待望の新環境センターが稼働となる。さらなる循環型社会への取り組みを加速させていく良い機会として活用していくべき。併設される啓発施設をどのように活用していくの

か。
答 環境センターの活用を通して環境学習を深めることは重要。今後は、小学校高学年や中学校においても啓発施設を活用し、楽しく体験的に学習できる機



新環境センター

会を設けるよう検討する。

さらなる保育の充実を

問 一番大事なのは、子どもの成長・子どもの安全をあくまで中心に考えていくこと。その思いが結集されていくことにより、課題は課題として一つ一つ克服していくものと思う。その認識と具体的な対応は。

災害に強い水道インフラの整備

床井紀範 議員

問 今後の水道インフラの整備計画は。

答 老朽化した石綿管を、耐震性のある铸铁管やポリエチレン管等に布設替えを行う。浄水場の配水池の耐震化も進めている。

イオンタウンの開発

問 開発計画や周辺地域へ配慮すべき点は。

答 開発行為等事前協議申請書が提出された後、協議する。電波障

害や交通安全対策も配慮すべきと考える。

問 開発による波及効果や商業・産業振興は。

答 地元雇用の促進や商店会等と連携、商工会への加入等を要望する。増収が期待できる。

上福岡駅踏切周辺の雨水対策

問 大熊医院横の横断歩道周辺の雨水対策を。

答 川越県土整備事務所に要請した。

葦原中学校周辺の交通安全対策

問 葦原中学校東側の道路の歩道整備事業の進捗状況は。

答 設計が終わり、契約に向け事務作業を進めている。

安全対策は。

問 安全対策は。
答 夏休み期間に合わせるように調整し、水道管の布設替え工事を行うが、安全に配慮して夜間工事で行う。

より良い保育のために
環境整備を

伊藤初美 議員

問 1歳児の保育士配置基準は県よりも低い。引き上げを。

答 県では、私立保育所を対象に児童4人に対し保育士1人を配置している。本市では5人に1人配置だが国よりは高い基準としている。

安全対策

あと回しは危険

問 三芳スマートIC



大井中学校前市道

フル化で安全対策がなされないままでの大型車両通行は危険だ。安全対策協議会での協議

内容は。
答 アクセス道路における事故発生状況から対策が必要な箇所を抽出した上で、事故発生要因を分析し、協議調整を行っている。

脳ドック補助の対象拡大を

問 後期高齢者の脳ドック検診補助が今年度からスタートした。対象年齢を拡大しては。

答 後期高齢者の補助は県の全額補助である。脳血管疾患の早期発見・治療の観点から

30歳以上の補助も既を検討している。

20代の定住促進

問 20歳〜24歳の転出超過の原因をどう捉えているのか。

答 窓口アンケートの結果、4割が就業関係によるものである。

問 シェアハウスなど住宅支援が有効ではないか。

答 空き家活用の検討を行う中で、調査を進めていきたい。

※日本型DMO事業化の可能性は

島田和泉 議員

問 広域連携で観光事業化の推進と雇用創出や名所、文化財など利活用の可能性は。

答 先進事例を参考にしながら、三芳スマートICフル化と併せ、様々な産業を含めた観光地域づくりの構築の可能性について調査・研究をする。

地域エネルギー事業の循環モデルを

問 新環境センターのエネルギー生産能力と活用の可能性は。

答 本稼働後は年間発電量は1612万3620kWで約4500世帯の年間消費量に相当、事業利用の残りを売電する。

企業誘致推進の可能性は

問 既存企業の産業構成や特色、推進策の検討状況は。

答 産業構造は製造卸・小売業、医療・福



祉などがあるが、約半数をサービス産業が占めている。企業誘致の優遇措置は本年度に研究する。
シルバー人材センターの労働力活用を
問 雇用形態と就業条件、労働条件緩和や労働力活用範囲の拡大の可能性は。
答 就業形態は、請負・委任及び一般労働者派遣。広域化に伴う会員数増、大規模外注に期待している。法改正による緩和に期待。

※日本型DMO 様々な地域資源を組み合わせた観光地の一体的なブランドづくり・情報発信等について、地域が主体となって行う観光地域づくりの推進主体。(Destination Management / Marketing Organization の略)

食品ロス削減に向けて

川畑京子 議員

問 消費期限や品質に問題がないのに廃棄されてしまう食品。今後、事業者から引き取り、福祉施設などへ提供するフードバンクやこども食堂と連携していく考えは。

答 子どもの学習支援事業の中で、フードバ

ンクを活用した取り組みを実施している。今後、各地のこども食堂を参考にし、検討していく。

問 学校給食の残滓の現状は。

答 学校の給食センターにおいて、食べ残しのリサイクル、堆



自主財源の確保と
防災・防犯の推進を

小林憲人 議員



電光掲示板付き自動販売機

問 自動販売機の設置場所や方法を見直し、収入額が20倍を超えた事例が多数ある。災害時の飲料備蓄にも繋がるので、公共施設や集会施設等への増設を。

答 防災や防犯など、二次的効果も期待できる。今後も設置場所について調整し、自主財源確保に取り組んでいく。

運動公園の整備と
早期利活用に向け

問 プール及び管理棟跡地を、多目的広場に

する案が出ているが、その他の既存施設の改修及び修繕計画は。

答 利用者から、それぞれ要望がある。テニスコートは増設してオムニコート化し、野球場などの施設は実情に合

わせ修繕等を行いたい。

災害に備え

二次的避難所化を

問 各自治組織と協議し、集会施設を災害時に障がい者や妊産婦が利用できる二次的避難所として指定すべきでは。

答 自助や共助をより身近な地域・生活圏で確保できるよう、検討

を進めたい。

地域の支え合い
推進にむけ

問 ※CSWの本旨に照らすと、高齢者福祉だけではなく、障がい者や児童福祉分野への取り組みも必要。対応は。

答 高齢者に特化した形のみではなく、将来的にその他の分野とも連携していきたい。

住民の交通権を
保証した改善を

問 お出かけサポート

問 119番をかけず救急につながる緊急時連絡システムの対象基準を具体的に示し、単身高齢者などの生活の安心を。

答 脳疾患・肺疾患・心疾患等により、緊急時に通報が困難な場合や、過去の救急搬送の有無などを考慮し対象を決める。

問 「市民交流と健康増進を図る」という目的を達成できる企画・

緊急時連絡システム事業の拡充

足立志津子 議員

タクシーの範囲を近隣地域の救急病院などに拡げては。また、市内循環ワゴンの高齢者等への減免制度導入など、交通権保障の視点で改善を。

問 アンケートで実証運行の結果をまとめ、本格運行に移る。

余熱利用施設エコパの運営改善を

問 「市民交流と健康増進を図る」という目的を達成できる企画・

空き家対策の新たな展開、
条例改正急務

塚越洋一 議員

問 特別措置法が施行されてから1年以上が経過し、市として空き家対策の新たな展開が必要となった。空き家バンクの創設、条例改正を急ぐべきでは。

答 空き家バンクは有効なので、創設に向け検討中。条例の改正は、関係部局の連携体制を整え、本年度内には改正案を提出したい。

自治組織への
支援強化を

問 役員の高齢化対策と班長の集金活動などの負担軽減を。

答 加入率は毎年減少し、現在は市内で57団体、56.7%。

問 補助金や市役所の業務との関係など、今後のあるべき姿を連合会と協議して対応していく。

ヤマハ工場跡地の
開発と交通対策

問 歩道の確保と周辺住宅地への車の進入防止対策は。

答 幅2mで歩道を確保する。なお誘導員の配置や交通協議の情報をともに事業者に協力を要請する。

問 商工会や町会など地域への協力を要請すべきでは。

答 市内優先雇用、商工会への加入、自治組織との連携や防災・清掃活動などを要望していく。

編集委員が
インタビュー！

表紙：働く人シリーズに寄せて

印鑑作成工房に伺いました

Q 開業してから、どれくらいですか。**A** 団地ができて、大原に1号店を出しました。人通りのある県道沿いに來たのが、昭和44年なので、47年になります。**Q** 作業で心掛けていることは何ですか。**A** お客様のニーズに合わせて、速く彫ることも可能です。ただ、手仕事なので、丁寧さを大切にしながら、芸術性も考えています。**Q** この仕事でうれしいことは何ですか。**A** お客様が喜んでくれることが何よりうれしいです。機械彫りとの戦いですが、職人仕事（手彫り）にこだわっていきたいです。**Q** これから印鑑を作ろうとしている方にメッセージをお願いします。**A** 印鑑を押す時は十分に注意をしてほしいです。特に実印を押す書類は重要なものが多いです。だからこそ、実印は手彫りをやっているところで！

上福岡2丁目の二見吉勇さん

議会だよりは、ふじみ野市のホームページからも閲覧できます。
市議会の議事録も見られます。

<http://www.city.fujimino.saitama.jp/categories/bunya/shigikai/>



6月定例会の傍聴者は87人でした。

傍聴をお待ちしています

次の定例会の
開 会 予 定: 9月1日 午前9:30~

請願締切予定: 8月26日 午前10:00

市役所4階で開催します

議会広報常任委員会

委員長 伊藤美枝子	副委員長 渡辺 大
委員 加藤 恵一	委員 鈴木啓太郎
委員 小林 憲人	委員 島田 典朗
委員 床井 紀範	

表紙の題字を書いてくれた人

韋原中3年 岸澤薫矢さん

ふじみ野



現在、熱中していることは自然科学部の活動です。理科展に出品するために自然の観察を毎日頑張っています。これから、書道でもっと上手く書けるように努力していきます。

編集後記

本年4月の熊本地震では、震度7の地震が同じ地で2度に渡り発生しました。

たが、14日の地震は、16日の地震の「前震」であったとされました。さらに、度重なる大きな揺れにより、新耐震基準を満たす建物も数多く倒壊しました。こうした事態に対し、聞かれた言葉は「想定外」。

5年前、東日本大震災においても「想定外」を多く耳にしました。確かに、いつ、どのような災害が発生するかを想定することは容易ではありません。しかし、最悪の事態を想定し、被害を軽減するために備えることは決して不可能ではありません。今回を契機に、再度、ご自身の備えを確認していただければと思います。

被災された方々にお見舞いを申し上げるとともに、一日も早い復旧・復興を心よりお祈りいたします。(島田 典朗)